

様々な分野の先輩若手研究者が、自身が行っている研究内容の紹介、研究者の道に進んだきっかけや国際学会での発表体験、ラボでの日常などを発表します。発表内容を踏まえたフリーなディスカッションを通して、互いの理解を深め、この機会にみなさんの「研究」や「学び」に生かすとともに、大学院の魅力を再発見してみたいはかがでしょうか？

7/06  
FRIDAY  
12:20

## アスリートにおける 運動誘発性食欲減退の 実態および その打開策の検証

### 研究者の道に進んだきっかけ

大学入学後、研究を通してアスリートのパフォーマンス向上に貢献できるということを知り、研究者としてスポーツの現場に関わりたいと考えました。

### 研究の内容

運動誘発性食欲減退は肥満解消等に有効である一方で、アスリートでは競技力低下に繋がる可能性があります。しかし、前者に着目した研究がほとんどであり、ネガティブな側面には焦点があてられてきませんでした。そこで、アスリートにおける運動誘発性食欲減退について研究を進めています。

小島 千尋 [スポーツ健康科学研究科  
博士課程後期課程2回生]

毎週 金曜日 12:20-12:50

立命館大学 びわこ・くさつキャンパス  
カラーニングハウスI C107

参加無料 [おにぎり・揚げもの付]

7/13  
FRIDAY  
12:20

## 太陽光発電量予測に 基づく電力系統の 分散協調制御

### 研究の内容

再生可能エネルギーの発電量には天候に依存する不確実性があり、それを適切に取り扱わなければ電力系統の需給バランスが崩れてしまいます。その不確実性を吸収するために、バッテリーを電力系統内へ分散的に設置することが有効であると考えられます。私の研究は、制御理論や分散最適化の立場から、太陽光発電量予測に基づきバッテリー群を分散協調的に制御する手法を提案するものです。

難波 巧 [理工学研究科 修士課程1回生]  
(会場: カラーニングハウスI C106)

7/20  
FRIDAY  
12:20

## 新奇アデニル酸シクラーゼ から解く、緑色植物の 生殖様式の変遷

### 研究者の道に進んだきっかけ

入学直後の研究室紹介で植物の葉緑体が光に応答して動く動画に衝撃を受け、植物が外部環境の変化に適応して生きてきた仕組みを解き明かしたいと思い、研究者を目指しました。

### 研究内容紹介

「植物」と聞いて、どのような生き物を想像するでしょうか。地球上には水中から陸上まで、多種多様な植物が存在し、それぞれ生育環境に合った生殖様式をとっています。植物の生殖様式の変遷を紐解くため、陸上植物において配偶子の成熟に関与する新奇アデニル酸シクラーゼの研究を行っています。

山本 千愛 [生命科学研究科 博士前期課程2回生]

## 交流会

発表者と参加者の交流会  
(ピザパーティー)

日時 | 7月20日(金) 18:00~19:00

会場 | アクロスラウンジ

参加費 | 無料(ピザ・飲み物付)